



スペース・シャトル「遊びの教室」

北関東発達・遊び研究所 所長 岩崎 清隆

「こころみの会」がやっている事業のひとつに、「遊びの教室」があります。これは子育てに少し不安や困窮を感じていらっしゃるお子さんの『遊ばせ』方のコツなどを実際の遊びの場面の中で提供する、いわばお母さん向けの『教室』といってもいいでしょう。

1歳6か月と3歳が母子保健法で定められた乳幼児健診ですが、ほとんどの地域では4か月健診も実施されているようです。その時点で医療の場につなげた方がよいと判断される場合は通常そうになっているのですが、多くの場合、成長や発達の遅れがそれほど顕著でない場合は、3歳まではいくところがないのが多くのところで普通でした。こころみの会の理事長の“クマさん”はそれを心配して、10年ほど前に近隣の保育士さんたちを組織して邑楽町の保健センターで、そのための「遊びの教室」を発足させたと思っています。しかし数年でそれは自然消滅したそうです。8年前に「こころみの会」の子育て利用者支援事業が、あらためてそれを復活させ、今日まで継続させてきたのが今の「遊びの教室」ということです。

目的からいうと、本来町の健康づくり課あたりがすべき性質の事業と思われるので、数年、邑楽町の保健センターを会場としてきました。こころみの会では児童発達支援事業所も併設しているので、お母さんたちがそこに足を運ぶのは、少しハードルが高いのではという配慮もありました。保健センターでの会場は、卓球や趣味などの有志の集いと同様に、ひと月前にしか予約できません。多くの教材を運び、会場づくりをし、また戻ってきてフィードバックをするのはかなり大変です。3年やっても町がこの事業を受け継いでくれる可能性をあまり期待できなかったこともあり、結まーるの建物が新築されたのをきっかけに、会場をまたここに戻しました。

「遊びの教室」とあるように、そこでは遊びを展開することがメインですが、いろいろな遊具で自由に遊ばせるというわけではありません。遊びを使いますがあくまで全体がひとつの集団として有機的に展開させるようところがけています。そこには「母親から離れる」「着席する」「人のやっていることを見る」「返事をする」「やってみる」など、「親から離れられない」「見ると手が出てしまう」「泣く・暴れる」ことでしか気持ちを表せない子どもたちにとっては乗り越えなければいけないハードルがあります。しかし多くの子どもが4、5回で、着席し、人のやっている様子をよく見、問いかけに返事をし、勇気を出していろいろなものにチャレンジできるようになっていきます。そういう様子に職員も随分励まされました。

「遊びの教室」は「心地よいこと、好きなこと、母親の上でしかない」動けなかった子どもが、「わかったからする」「人に言われたからする」というように乳児から幼児の行動の基準を獲得する場になっています。母親にとっては、子どもに潜んでいる能力を改めて見直す機会です。そこで母親は不安と想像の悪循環から解放されて、事実を客観的に眺め、何をすべきかを学ぶ態度を獲得します。「遊びの教室」は障害のある子どものための教室ではありません。障害であろうが、個性の範囲内であろうが、感覚・運動期に固着している子どもに、人との関係の世界へ、表象の世界へと、子どもの生活世界を広げてゆくことをねらいとしています。職員にとってはここはそういう技術を磨く道場です。「遊びの教室」が子ども、保護者、職員がそれを通過することによって、今とそれに続くこれからの時間を最も適切に選択できるようになる快適なスペース・シャトルになることを願っています。

社会福祉法人 こころみの会

児童発達支援事業所
放課後等デイサービス
放課後等デイサービス
相談支援事業所
放課後健全育成事業
障害福祉サービス事業所
多機能型事業所（児発・放デイ）

ていだのふぁ
ゆめわかば
あしうたり
そらいろのたね
いちばんぼし
結まーる
オーロラ



令和7年3月号

ぶねうま通信

令和6年度下半期の活動報告

『ぶねうま』とはギリシャ語で「息」「風」「肺」などの意味を持っています。

社)こころみの会 法人内研修 研修テーマ:誤嚥防止研修

講師 羽生総合病院 言語聴覚士 澤田様

日時:令和7年1月18日(土) 15:30~16:30

毎月第3土曜日の15:30~ていだのふぁ、ゆめわかば、あしうたり、いちばんぼし、オーロラ、結まーるの職員が集まって事業所内研修を実施しています。内容は外部の講師を招いて講義をして頂いたり、各事業所の取り組みを皆で振り返ったりしています。令和7年度も年間計画を立て、実施していきます。

社)こころみの会 法人内研修 研修テーマ:痙攣(けいれん)と緊急時の対応

講師 訪問看護ステーションかがやき 山口様

日時:令和7年2月15日(土) 15:30~16:30



M君とその家族の誇りとよろこび

障害児者通所支援 施設長 川島 健介

令和6年2月からスーパーバイザーの岩崎先生から勧められて当法人の障害児・者事業所でもダンス活動をスタートさせました。年明けに職員数名と推薦された知的障害者のダンスグループ「ODORU-KAI」の練習風景を見学に行きました。そこで観た彼らの個と集団のダンスの完成度、ダイナミックさにまず圧倒されました。そこではリズムのとり方・移動動作や振付の正確さにおいて、高いレベルのパフォーマンスが求められており、障害があるからという妥協がありません。そういう指導者の求めに一心不乱に応えようとしている障害者の律儀で懸命な姿に心打たれました。

こころみの会でも本当にできるのかという不安もありましたが「やれるのかなと案ずるよりもまずやってみよう」の精神でその場で「ODORU-KAI」を主催している KYOKO 先生に、こちらでの指導をお願いしました。ダンスを始める前は、からだを柔軟にする、動きをリズムカルにする、振り付けのパターンやその順序の記憶、などダンスの効果を自分なりに描いていましたが、実際にダンスが始まると職員・利用者共にまず踊ること、それ自体に爽快感と達成感を感じ回を重ねる毎に、ますますそれにはまり込んでいきました。パンチの効いた音楽に動きを合わせる、皆と一緒に合わせる、自分がそういうことの主人公になっているという感覚、それを人に見てもらおうという快感、ダンスには心身機能の向上だけでなく、情緒面、対人関係面においても大きな成果をもたらす側面もあり、優れた社会での適応を促す優れたツールであることを改めて実感させられました。秋口になって、KYOKO 先生から、2,3年おきに開催している「ODORU-KAI」主催のダンス発表会に出てみないかという提案があり、とても自信はなかったのですが、これも体当たり精神でこころみの会も参加させてもらうことにしました。

しかし発表会当日の朝、予想外の事態が発生しました。参加者のひとり、高校三年生のM君の保護者の方から、『Mくん布団から起きてこない』のと連絡があったのです。早速自宅を訪ねたのですが、M君の顔を見ると、今日出演することへの緊張と不安のため、今にも泣き出さんばかりの表情です。まず本人を安心させるのが先決だと「おはよう」と笑顔で声をかけ、手を握ったところ、彼の手が汗でびしょりです。寝床の中にあるM君と言葉を交わし、深呼吸をさせながら腕を上下させつつ、いろいろな姿勢をとらせ布団から出るよう誘導してみました。こういうやりとりを繰り返しているうちに、Mくんの表情が徐々に和らいできたことがわかったので、「さあ、着替えて行こう」と声をかけると、「うん」と応えて自分で服を着だしました。2時間弱の公演が終わり、出演者はロビーで観客を迎えます。M君の顔にも自信と誇りのようなものがうかがえます。Mくんがいちはやく私の顔を見つけ出し、満面の笑みを浮かべて「けんちゃん踊れたよ」と抱きついてきました。その夜、保護者の方から感謝の電話が鳴りました。大観衆の前で踊ったMくんの雄姿は保護者の方にとっても忘れられない思い出になったのでしょうか。

正直言って、福祉の仕事というのは大変な労力を求められるあまり、そこに働く当人がそこで働く喜びを見出しにくくなる瞬間があります。そういう時、このM君とその保護者の方が見せてくれたできごとは、自分たちの仕事の意味と喜びをあたためて実感させてくれます。こころみの会で夏前からダンスを始められたこと、年末の発表会で多くの子どもとその家族に嬉しさと誇りを感じた経験があったこと、そういうことが、これからのわたしにとっても、キャリア人生を明るく照らすキャンドルになっていることは確かです。



『ODORU-KAI DANCE LIVE2024』

放課後等デイサービス ゆめわかば 作業療法士 角田 実花



当法人では令和6年2月から「ODORU-KAI」のKYOKOさんを講師に招いて月1回のダンス教室を始めました。レッスンは主に風の子保育園で行ない「結まーる」、「あしうたり」、「ゆめわかば」で参加しました。踊る曲(今回は Mrs.GREEN APPLE のダンスホール)をパーとごとに練習を重ねるなかで、講師のKYOKOさんから発表会へのご招待をいただきました。全員の参加はステージの大きさなどの関係から難しいため、今回は各事業所ごとにメンバーを選出しステージ発表に向けて練習するとしました。ただ…「腕を上げ身体を大きく動かすこと」、「顔をあげて目線はまっすぐ前に笑顔で!」、「ダンスのときだけでなく舞台上の入場・退場の歩く速度、移動の速度」、「自信を持って踊ること」など課題は山積みでした。月1回の練習だけでは足りない…各事業所ごとに、または共同でダンス・入退場の練習を行なってきました。

そして12月22日(日)前橋市民文化会館にて「ODORU-KAI DANCE LIVE2024」が開催されました。午前中にリハーサルがあり大きな音や照明、会場全体の雰囲気などに圧倒され、最初は緊張でこわばっていました。しかし衣装に着替えヘアメイクをして素敵な姿になると、段々と笑顔が戻りました。本番、緊張していた皆もこれまでで一番いい笑顔踊ることができました。大成功に終わりました。終わった後は張り詰めた緊張感からの解放により、泣き出す子もいました。

今回のダンス教室での練習、ステージ発表で皆の成果を披露できて本当に良かったです。踊っていた皆のあの表情を忘れないようにしようと思いました。これからも色々なジャンルのダンスに挑戦していきたいです。

日本発達系作業療学会 第13回学術大会で

こころみの会のダンスの発表をしました。

令和7年3月15日、16日に東京都江東区にある東京保健医療専門大学で日本発達系作業療学会「笑顔とつながりを育むこれからの作業療法」が行なわれました。そのなかでこころみの会のダンスの取り組みを『知的障がい者施設就労継続支援B型事業所におけるダンス活動の導入』のタイトルで発表を行なってきました。





群馬サファリパーク・群馬県立自然史博物館へ行ってきました。

放課後等デイサービス オーロラ 稲澤 桃子

1月25日(土)に1年生のお出かけとして群馬サファリパークと群馬県立自然史博物館へ行ってきました。餌バスに乗り換えていざ出発!! エランド・アメリカバイソン・ライオンの餌やりにも子ども達も大興奮でした。バイソンにお別れの際は「バイバイバイソン」を合い言葉にお別れしてきました。お昼はみんなでレストランへ、友達と嬉しそうに食べていました。自然史博物館では恐竜や石など目を輝かせて見ていました。中には館内カメラを動かせるスペースで何やら笑い声が…見に行くと、職員をカメラで追っていました。これにはみんなで大笑い!! お腹が痛くなるくらい笑わせてもらいました。帰りにはお土産も買えて大満足。何にしようか悩んだり、お金の計算も頑張りました。



ボウリング大会とお風呂で温まる会(3年生)



いちばんぼし 宮村 健佑

12月26日(木)にボウリング大会とお風呂で温まる会を3年生の子ども達と楽しんできました。ボウリングは初めてやる子どもも多く少し緊張した様子でしたが回数を投げるごとに自信もついて気持ちよく投げていました。ストライク・スペアがとれた時にはみんなで大喜びです。ボウリング大会の後はそれぞれ景品を用意し、ビンゴ大会で盛り上がりました。足利健康ランドへ移動し夕食・お風呂で体を温めました。タイトルにある通り「温まる会」だったのですが浴場にある大きなプールに大はしゃぎで自ら体を動かし温める子ども達でした。夕飯も食べ「来年は何をしようか～」と会話も弾んでいました。



足利健康ランド



ボウリング



ボウリング



「クリスマス会」



放課後等デイサービス ゆめわかば 土井 涼我

ゆめわかばでは12月はみんなでクリスマスパーティーを行ないました。朝からサンタの恰好をしている子どもたちの姿に、今か今かとクリスマスを待ち望んでいた子どもたちのワクワクがとても伝わりました。

午前の部では、普段から行なっているアクティビティを取り入れたお菓子取りをオーロラで行ないました。お菓子が入っている風船をダーツで割ってゲットしたり、自分で転がしたカプセルを追いかけてバケツに入れたり、パラシュートに吊るされているお菓子を手でキャッチするなど狙ったり叩いたり…他にも沢山やりましたがどのアクティビティもみんな真剣に取り組んでいました。大人も子どもも大いに盛り上がりしました。

午後の部では、外で焚火も兼ねて色々な食べ物を焼きました。リンゴにジャガイモ、トマトにBIGマシュマロも焼いて食べました。焼きバナナはとても甘くおいしかったです! サンタさんも来てくれてプレゼントを貰い最高のクリスマスパーティーになりました。



色々なものを焼きます。



自分で転がしたカプセルを追いかけてバケツに入れるお菓子取り。



「ピザのトッピング」



「クリスマス会」

放課後等デイサービス あしうたり 板橋 歩夢

あしうたりでは12月26日(土)にクリスマス会を行ないました。午前中は『ピザパーティー』、午後は『お楽しみ会』を行ない、1日を通してたくさん楽しみました。

『ピザパーティー』では子供たちにピザのトッピングをしてもらい、ピザ窯を使用してピザを焼きました。(ピザ窯は職員と子供たちが活動の中で製作しました。モルタルと煉瓦をつなぎ合わせ組み立てるといった工程は大変でした。)ピザのトッピングでは職員の顔に見立てたピザを作る子もいれば、「これを乗せたら絶対おいしいでしょ」と言って全種類トッピングしてた子もいました。その後ピザを順番に焼きひとつひとつ完成するたびに食べるという「食べ放題形式」で『ピザパーティー』を楽しみました。

お楽しみ会では的当てゲーム、フォークダンスなどをして楽しみました。みんながフォークダンスを楽しんでいる途中にまさかのブラックサンタがあしうたりのクリスマス会をめちゃくちゃにしよう登場。(今年は来ないと思っていたのに…と呟く子もいました。)ブラックサンタをみんなで必死に追い出して、本物のサンタクロースを心を込めて呼ぶと…愉快的音楽とともにサンタさん登場。こどもたちにプレゼントを配ってくれました。笑顔と楽しさあふれる一日となりました。



「サンタさん登場 プレゼント」



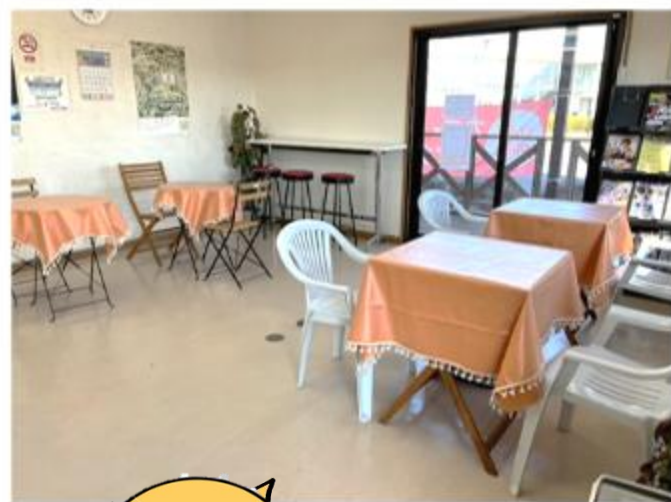


結まーる cafe リニューアルオープンしました

営業時間 9:00～15:30

住所 邑楽郡邑楽町中野 2520 (邑楽中央公園内)

☎ 080-9514-6370



結まーる 焼き菓子部門

でんえんマルシェ・結まーる Cafe で販売しています



でんえんマルシェは木曜日の搬入、販売しています。
焼き菓子の種類もイベント用も併せて 30 種類ほどあります。

焼き菓子の注文販売を承ります。
贈答品用に箱詰め可能です。☎080-9514-6370



【編集後記】



早いものでぶねうま通信の編集、発行に携わり 2 年が経過しました。
事業所の活動、行なった研修、事業所間の連携した活動(3 拠点保育、介護、障がい)の情報発信などを「ぶねうま通信」の発行を通して紹介していきます。
お互いの利用児・者の療育・支援方法、特性を知ること、職員同士の理解を深める事につながるよう取り組みます。

編集長 角田 昌樹
編集委員 武井 渉 挿絵 角田 実花



「ていだのふぁ運動会」

児童発達支援 ていだのふぁ

児童指導員 末吉 萌

少し寒くなってきた11月2日、第16回ていだのふぁ・オーロラ合同運動会が行われました。この日はあいにくの天気でしたが、子どもたちは元気いっぱい！まずは歌とリズムを楽しみます。かけっこをした後は、たくさん練習したお楽しみ競技です！急な角度の坂を登ったり、自分の身長を超える戸板を飛び越えたり…。力いっぱい取り組む子どもの姿はキラキラ輝いていました。またフルーツ食い競争や障害物リレーには、職員と保護者も参加し大盛り上がり！笑顔溢れる運動会になりました♪

〔職員より運動会を振り返って〕

準備が大変だったけど、当日子どもたちの姿を見ると頑張った甲斐がありました！

保育士 杉山 莉穂(りほちゃん)

初めての運動会。練習からやる気満々の子どもたち！当日輝く姿を見ることができて感動しました。

児童指導員 加藤 温(のんちゃん)



〔写真1〕かけっこ練習の様子



〔写真2〕戸板登り練習の様子

「成人を祝う会」 障害福祉サービス事業所 結まーる サービス管理責任者 角田 昌樹

令和7年1月11日(月)障害福祉サービス事業所「結まーる」では2名の方が20歳の節目をむかえました。日々作業や活動と一緒にいる皆と職員、保護者の方も交えて多目的ホールを使用して「成人を祝う会」を行ないました。

理事長、施設長の祝辞に始まり、節目を迎えた本人、保護者の方への花束贈呈、20年の歩みを振り返る動画視聴、保護者の方の挨拶と「成人を祝う会セレモニー」にて、結まーるの利用者の方、支援スタッフ、保護者の方でお祝いすることができました。そのあとは個々に様々な商品があたる「新年お楽しみ抽選会」、参加者全員での「会食」と…結まーるの皆で「成人」を祝うことができました。



成人を祝う会



20年の歩み(動画視聴)